

重化学工業の発達（海底炭坑の伸長）



* 地図昭和14-6「宇部元山炭田平面図」

解説

1931（昭和6）年の満州事変以後、政府の保護と軍需の拡大により重化学工業が発達し、石炭鉱業が活況を帯びていきました。

左の写真は1939（昭和14）年の宇部元山（もとやま）炭田の地図です。宇部地域の炭鉱は、陸上部から海底部に傾斜する炭層にむけて開発され、大規模な海底炭坑として発展して行きました。クモの巣を張り巡らせたように見えるのが海底炭坑で、沖に向かって坑道が伸長している様子が見て取れます。

しかし、海底に延びる炭鉱は危険と隣り合わせで、海水の浸入による犠牲者を数多く出しました。

当館には、この他、1923（大正12）年、1928（昭和3）年、1935（昭和10）年の宇部元山炭田の地図があります。



* 左の資料の裏面は「宇部鉱業案内」で、宇部の炭鉱の歴史と現状が紹介されています。